

I 「心のきよい者は幸いです」：8。

主の教えには順序と連続性がある。無計画な順序ではない。「義に飢え渴く者は幸いです」：6は、中心に置かれていた。初めの三つの教えが段々ここまで盛り上がっていき、後の教えはこれに続いている。初めの三つの教えは、私たちの必要と自覚に関係している。

- ①「心の貧しさ」
- ②「自分の罪深さゆえに悲しみ」
- ③「墮落している恐るべき自分の性質と自分の力では救われがたい自己中心を真に知ることから生まれる柔和さ」である。この三つは、必要性の自覚が絶対に大切と教えている。次に、必要の満たしに対する神の備えについての偉大な御言葉が続く。
- ④「義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるから」：6。必要を自覚した時に飢え渴く。その時、神は私たちが満ち足らせて下さる。その後、満たされた結果が→
- ⑤「あわれみ深くなる」
- ⑥「心がきよくなる」
- ⑦「平和をつくる者になる」：9。

では、8節を見たい。「心のきよい者」とはどんな人か。

それは、まず本質的に自分の心の汚れを悲しんでいる人である。なぜなら、きよい心を持つ唯一の道は、自分が汚れた心を持っていることを自覚する事であり、きよさに導く唯一のことを自ら進んで実行するまでに、それを悲しむ事であるから。「心のきよい者は幸いです」。これこそ、キリスト教の中心主題。一つ一つの言葉を見ていきたい。

「心の」きよい者。キリストの福音は、心に関するもの。その強調は、ことごとく心に置かれている。主は初めから終わりまで心について語っておられる。

同じ事が旧約聖書にも言える。パリサイ人、律法主義者は、外側に関心を持ち、内側は無視している（マタイ23：25）。

彼らの内面は、貪欲と邪悪で満ちていた。重要な律法の中心、神への愛、隣人への愛を忘れていた。真の主の教えは、「心の状態はどうか」という問いから出発する。

心とは、人格の中心、知性、感情、意志すべてを含む。心は、人の存在（being）と人格の中心、すべてのものが湧き出る泉。

「心のきよい者は幸いです」。

幸いなのは、表面だけではなく、その存在の中心において、その行動の源において、きよい人。

私たちの悪事は、心の中から出る。「人の心から出て来るものは、悪い考え、不品行、盗み、殺人、姦淫、貪欲、よこしま、欺き、好色、ねたみ、そしり、高ぶり、愚かさ」（マル7：21, 22）。

私たち（個人も、国々も）のあらゆる問題は、人間の罪の心から起こっている。悪に染まった私たち人間の心は、高度の教育、政治的力、条約では、内側から根本的に変わることはできない。

福音、御聖霊の真の力がどうしても必要！

「きよい心」とは一偽善がない、純真な心。動機が純粹（自分の我欲のためではなく、純粹に神の栄光のための心）。陰ひなたのない心。何も隠されていない。誠実。下心、二心がない。神と世（罪）に二分されていない心。単一の心。きれいにされた汚れのない心（主の十字架の血と御聖霊により）。「心のきよい」とは、主御自身のようになること、神を自分の最高善と認め、神を愛する事に集中する事、二心のない愛を持つ事。マタ23：37, 38。さらに、心のきよいとは、あらゆる面で神の栄光のために生きる事、これが最高の願いである心。神を欲する、神を知ることを欲する、神を愛し、神に仕える事を欲する。

II 「その人たちは神を見るから」：8。

これまで見た意味で心のきよい人は、神を見る（もちろん肉眼で神を見ることはできない。

「人間が…見ることのできない方です」 I テモ6：16）。地上にいる間も、キリスト者は、

- ①自然の中に神を見ることができる。
- ②キリスト者は、日常の出来事の中に神を見る。神が働いておられることを！
- ③主が近くにいて下さることを感じる、主の臨在を喜ぶ。
- ④私達自身の経験において、神を見ることができる。私たちに対する愛ゆえの訓練、恵み深い取り扱い。

自分に対する主の御手をさまざまな事柄の中に見る。「訓練と思って耐え忍びなさい。神はあなたがたを（愛する）子として扱っておられるのです。父が懲らしめることをしない子がいるのでしょうか」（ヘブ12：7）。
「そんな雀の一羽でも、あなたがたの父のお許しなしには地に落ちることはありません」（マタ10：29）。
「あなたの行く所どこにおいても、主を認めよ」（箴3：6）。

- ⑤御言葉の中に神を感じ神を心の目で見ることが出来る。
- ⑥主の再臨の時には直接に神である主を見る事が出来る。

「今、私たちは鏡にぼんやり映るものを見ていますが、その時には顔と顔とを合わせて見ることになります」 I コリ13：12。

「キリストが現れたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです」 I ヨハ3：2。これは、最も驚くべき事である。

III 心をきよくするには。心をきよくできるのは、神のみである。

きよい心を持つ唯一の道は、御聖霊が私たちの内に入られ、私たちの心をきよめて下さることである。

御聖霊は「みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、わざを行わせてくださる」（ピリピ2：13）方である。

「あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださる」ピリピ1：6。

神のきよめの業は進行している。私たちの心は聖くされつつある。と同時に神は、私たちが受け身ではなく、私たちがなすべき分を与えておられる→

- ①自分の罪を隠さず正直に神に告白し、赦しときよめを受け続ける事。 I ヨハ1：7～9。
- ②「あなたに罪を犯さないために、私は、あなたのことばを心に蓄えました」詩119：11。
いのちの御言葉には、私達を主の御姿に成長させ、聖くする力がある。
- ③主にある交わり「私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私達をきよめます」 I ヨハ1：7。
- ④ 主の十字架の血の力。「キリストが傷のないご自身を、とこしえの御霊によって神におささげになったその血は、どんなにか私たちの良心をきよめて死んだ行いから離れさせ、生ける神に仕える者とするでしょう」ヘブル9：14
- ⑤ 罪、汚れ、不品行を避ける、近づかない。一人では弱いので、弱さを打ち明け、互いに祈り合う。「たがいに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。…義人の祈りは働くと、大きな力があります」ヤコ5：16。